

立谷沢川になぜ 砂防施設が必要なの？

立谷沢川のあらまし

立谷沢川は、月山を源流として本沢、濁沢、赤沢などの各沢をあつめて流れ下り、庄内町立谷沢地区をとり最上川に合流する延長39kmの川です。

立谷沢川は山形県でも一、二番を競うほどのきれいな川として知られ、春の新緑、秋の紅葉などその自然の美しさは四季を通じて地域内外に広く親しまれております。また一方では、大雨が降る度に洪水氾濫を繰り返し、田畑に襲いかかり、人命を奪い取りました。住民にとっては、暴れ龍にも見えたのではなかろうかと言われ、それが龍神信仰につながったと言えられるほどの暴れ川でもありました。

今でも、立谷沢川沿川のあちこちに、龍神・水神の石碑が数多く見られその当時は、暴れる川を鎮めるのに神だのみしかなかったことが忍ばれます。また夏には、祖先から受け継がれた龍神伝説を後世に伝えるとともに、直轄砂防事業施工50周年を記念した月山龍神まつりと龍頭観音供養祭が、昭和62年から開催されております。

直轄事業着手の経緯(立谷沢川の砂防事業はいつから始まったか)

昭和の始め頃、山形県の母なる川最上川に流れ出る土砂の70%が立谷沢川から流れ出ていると言われ、このままでは酒田の港まで土砂で埋め尽くされるとも言われました。このため立谷沢川から流れ出る土砂を調節することが大変重要なこととなり、昭和12年から砂防の工事をするようになりました。



洪水の記録

年 代	概 要
1879 明治12年	立谷沢村未曽有の大洪水にて耕地の過半決壊。埋没、荒野に変わる
1881 〃 14年	
1890 〃 23年	立谷沢川大洪水(7月14日 8月27日~28日)
1921 大正10年	大雨・洪水 8月6日
1927 昭和2年	立谷沢川流域に強雨、大出水(8月27日~28日)
1937 〃 12年	洪水 立谷沢川最高水位記録(7月9日)
1944 〃 19年	大洪水 立谷沢川(6月20日~22日) 被害額 33,128円
1946 〃 21年	(6月24日~25日) 被害額 1,698,810円
1948 〃 23年	(4月10日) 被害額 800,000円
1950 〃 25年	熱帯低気圧の豪雨により、立谷沢川流域では甚しい増水記差(8月3日~4日)
1952 〃 27年	5月 被害額 9,200,000円 7月17日 被害額 14,000,000円
1953 〃 28年	被害額 7,390,000円
1954 〃 29年	洪水 立谷沢川融雪洪水 被害額 750,000円
1955 〃 30年	立谷沢川(6月25日) 被害額 4,950,300円
1956 〃 31年	(8月) 被害額 2,500,000円
1957 〃 32年	豪雨により立谷沢川が氾濫し、新田橋が流出(7月8日)
1958 〃 33年	台風 7月・台風11号
1969 〃 44年	集中豪雨 8月
1976 〃 51年	集中豪雨 8月
1993 平成5年	濁沢左岸部に幅約350m、崩壊土砂量576万mの大規模地すべり発生、直接被害なし、一部土砂が本川に流下(6月5日未明)

立川町資料/1879・明治12年より

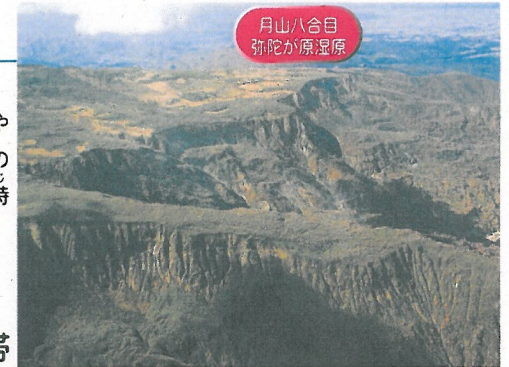
暴れ川である原因(立谷沢川流域の地形的、地質的な特徴)

立谷沢川流域の地質(主として濁沢)については、基盤になっているのは第三紀層で、さらに火山活動によって変質した岩石の上に溶岩流に覆われた火山体がついています。火砕流や泥流などの堆積物も第三紀層の上にあります。こうした地質条件に加え、豪雪、多雨などの気象条件などが地滑り地形を生み出す原因になっています。

上流部では、立谷沢川本流、濁沢、玉川など各支川を含めて、全体的に地すべり崩壊地が広く分布しています。特に濁沢源頭部(最上流部)では火砕流、火山灰等火山性の物からなる地滑りや崩壊地が集中的に認められます。支川玉川との合流点から最上川との合流点までの区間約16kmでは、平坦な上流からの土砂により埋められた谷が形成されています。

第三紀層

約6500万年前から200万年前までの時代、哺乳動物、双子植物が栄え、火山活動や造山活動が活発で、アルプス・ヒマヤラなどの大山脈ができた。現在の日本列島の形もこの時代に成立したと言われている。



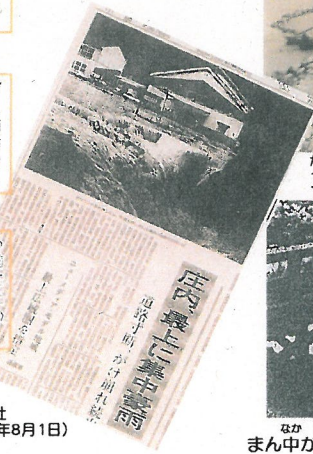
濁沢上流 大滑落崖地帯

災害の履歴

S.19 6月21日、最上川開水のため立川町濁川村の浸水戸数は三分の二に及びました。

S.44 7月29日、荷川で86mm/日を記録し、床上浸水7戸、床下浸水16戸、通気機4箇所、橋梁決壊3箇所、堤防決壊14箇所、農地被害23haの被害がありました。

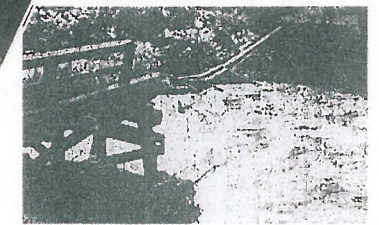
S.62 7月31日台風から変わった低気圧の接近で、梅海町線が甚悪化し、荷川で129mm/日を記録し、床上浸水4箇所、床下浸水7戸の被害がありました。



山形新聞社 (昭和62年8月1日)



立谷沢川右岸堤防欠壊 (昭和31.7.17)



まん中から壊れた旧立川町の旧新田橋 (昭和44.7)